

## 貴重書紹介

### 『新訂増補和蘭薬鏡』(洋学資料コレクション)



佐賀大学附属図書館蔵

## 解説

津山藩医で蘭学者宇田川玄真(1769～1834)が、ドドネウス(R. Dodonaeus)やブランカルツ(S.Blankaart)などの西洋本草書や薬説20余部から抄訳し、和漢の本草と比定した稿本を、宇田川榕庵(1798～1846)が校訂し、文政3年(1820)に『和蘭薬鏡』3巻を刊行した。さらに榕庵は増補編集をすすめ、『新訂増補阿蘭陀薬鏡』(文政11年・1825～天保6・1835)、6冊18巻を刊行した。これが本書である。各品の形状・効能・治験・製剤などを記し、水脈、腠液などを新語として紹介した。西洋薬が入手しにくい時代の蘭学者にとり、大変有益な書となった。

(地域学歴史文化研究センター教授 青木歳幸)